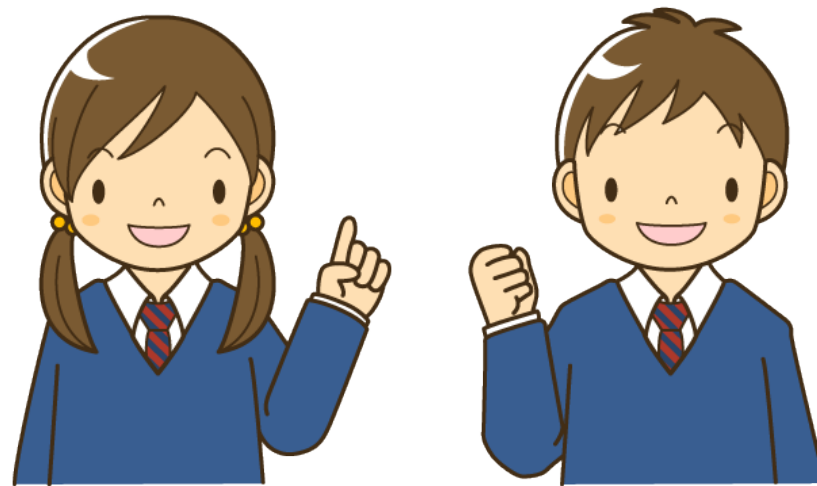


研究計画の立て方 研究の進め方・まとめ方



研究・・・よく調べ考えて真理をきわめること
(広辞苑より)

なぜ研究を行うの？



義務的側面・・・

教師の研修に対する努力義務が法的にも明らかになっており、学校づくりにおける研究・研修の位置付けが明記されている

社会的側面・・・

児童生徒が抱える問題を理解し、適切に対応するためには、教師の指導力の向上、様々な情報収集、適切な判断が必要になる

使命的側面・・・

教育の理想の実現に向けて、個々の教師が研さんを積み、資質・能力を向上させるためには、研究・研修は欠かせない

研究における大切な視点

日常化

- 日常の教育活動を見つめた研究・研修を目指す
- 毎日の学習指導や生徒指導に直結させる

実践化

- 理論と実践をつなげる
- 児童生徒を意識する
- 一般化できる実践を目指す

継続化

- 実践と理論を積み重ねる
- 研究の成果を毎日の実践につなげる

研究における大切な視点

日常化

実践化

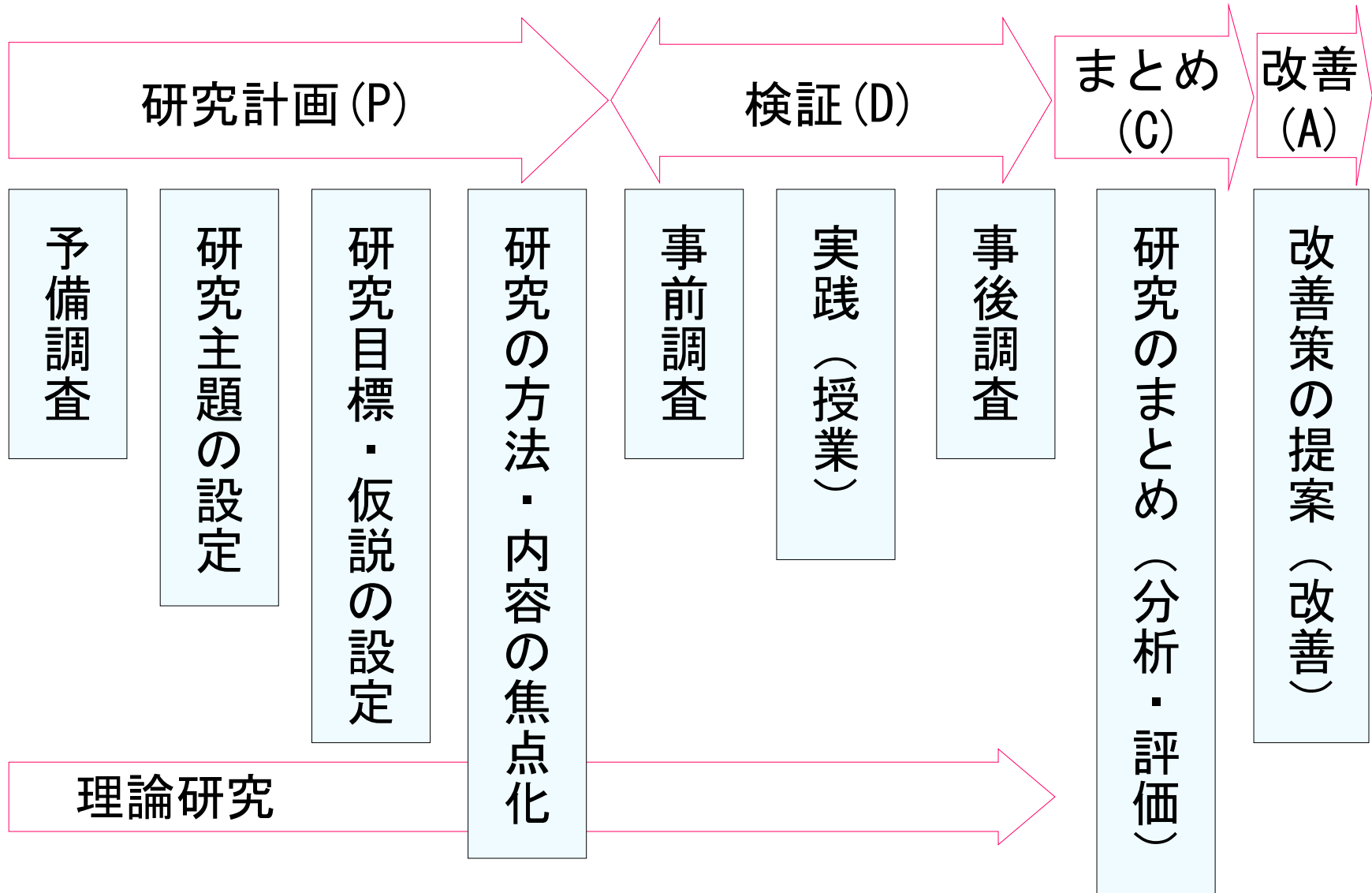
継続化



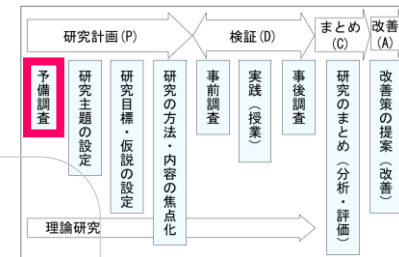
効率化

- ・ 研究授業、授業研究会の回数や内容の見直し
- ・ 研究紀要、各報告書、まとめなどの資料作成の在り方の検討
など

研究の進め方（基本的な流れ）



予備調査



外からの要請
教育的課題として解決が求められるもの

「学習指導要領」 「佐賀県教育施策実施計画」 など

円が重なる部分の研究になることが望ましい

児童・生徒の実態

佐賀県または本校

「学習状況調査」
「日頃の実践の中での
調査や見取り」 など

教師の実態

実践経験を基にした
成果と課題

「これまでの成功体験」
「これまでの失敗体験」 など

予備調査の目的

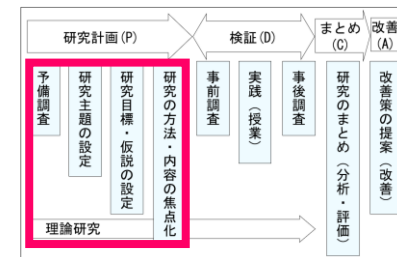
教育活動・教師の実態把握 児童生徒の実態把握

調査の構想を明確にする。

- 何を知りたいのか
- どのようなデータが必要なのか
- 収集したデータをどのように処理するのか
- 調査の方法
 - 各種アンケート、調査
 - 日常の記録
 - 作品の分析
 - 面接、対話

など

研究主題・研究目標・研究の仮説



研究主題



研究目標



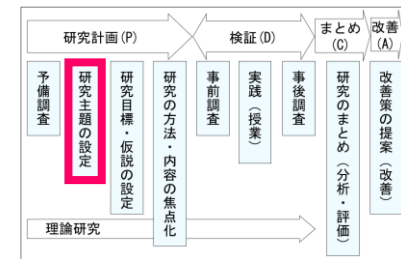
研究の仮説



徐々に具体的に
していく

各学年 各教科・領域
における児童生徒の目指す姿

研究主題に含まれる3つの要素



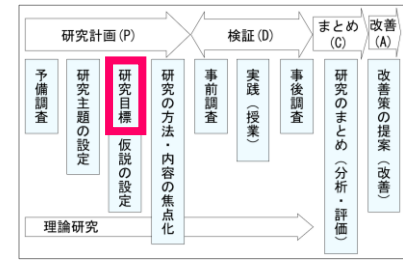
- 研究の目的(目指す姿) 「～を目指す」「～を育てる」 など
- 研究の内容(対象の領域・分野) 「～における」「～の研究」 など
- 研究の方法(手立て) 「～を通して」「～による」 など

例：小学校国語科

小学校国語科における指導事項の有用性の実感と、手引きによる
書く力の育成

研究目標に含まれる3つの要素

(主題を具体化)



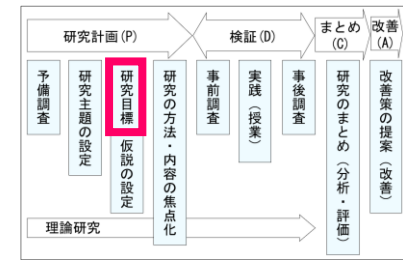
- 研究の目的(目指す姿) 「～のために」 「～を育てる」 など
- 研究の内容(対象の領域・分野) 「～において」 「～の在り方」 など
- 研究の方法(手立て) 「～を通して」 「～の工夫を行い～」 など

例：小学校国語科

「書くこと」の領域において、自分が伝えたいことを適切に書き表すことのできる児童を育成するために、指導事項を習得させる指導の在り方を探る。

研究の目的で意識すべきこと

目標に示されている「目指す児童生徒の姿」の具体を共有する



例

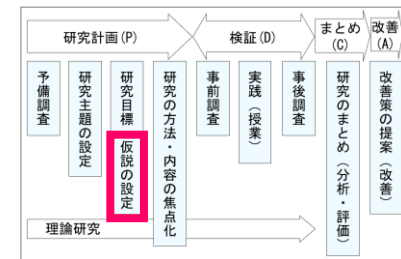
「主体的な学び」
「確かな学力」
「心豊かに」 など

これらの言葉のみで、具体的な姿のイメージを共有することは厳しい
具体を明らかにしておくことが重要

具体的な姿のイメージが
明らかになれば…

- 検証方法の具体化
- 発達の段階での系統化
- 研究方法（手立て）の具体化と多様化

研究の仮説の設定



研究の仮説は、研究の見通し、予測
ある程度客観性をもつ、結果についての仮の判断

(検証計画の内容や方向性が定まる＝仮説が研究を左右する ともいえる)

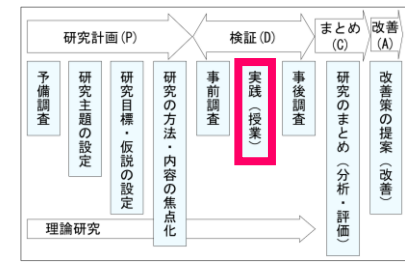
研究の仮説に含まれる3つの要素(研究の見通し、予測)

- 期待される姿・結果 「～なるであろう」など
- 研究の場・対象・範囲・内容 「～において」など
- 研究の方法・手立て 「～すれば」など

例：小学校国語科

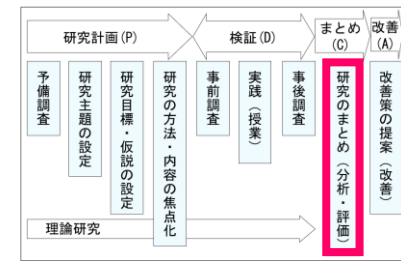
中学年の「書くこと」の領域における学習過程の「構成の検討」段階で指導事項の有用性を実感させ、「考えの形成、記述」から「推敲」に至る過程において指導事項やその用例を取り入れたモデル文を手引きとして児童が見返すことができるようにすれば、自分が伝えたいことについて、相手や目的を意識して構成や文末表現を工夫して書き表すことができるだろう。

実践を行う上での留意点



- いったいどのような手立てを講じるのか
 - 目標または仮説を基に、具体的に考える
- いったいどのような方法でデータを収集するか
 - 検証計画を基に、具体的に考える
- 児童生徒のための研究になっているか
 - 児童生徒に、過度の負担をかけない
 - 児童生徒が、手立てに対して有用感をもつことができるようにする
- 活動は、普遍性のあるものになっているか
 - 自分しかできない(他の誰かはできない)ものにならないようにする
 - 複雑な手順を踏む(他の誰かは再現しづらい)ものにならないようにする

研究のまとめ



成果と課題を明らかにし、価値を確認

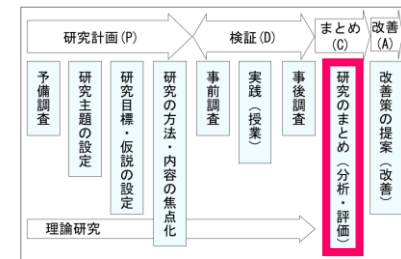
研究主題に挙げた目指す児童生徒像につながったか
手立て投入後の児童生徒の姿が、期待される結果になったか
期待する児童生徒の姿は客観的に評価できるか

などの視点が重要

まとめの内容

- 何を明らかにしようとしたのか
- どのような方法を講じたのか
- 目標に迫れたのか
- どのようなことが分かったのか
- どのような課題が残ったのか

研究のまとめの流れ



「研究の目標」の内容・方法で行った実践
「研究の仮説」の内容で手立てを講じた実践

実践の記録

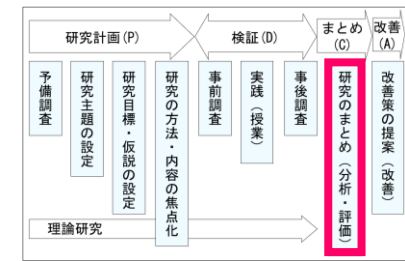
実践により収集した資料
実践前後に調査した資料

などの分析・考察

一連の
手順を
説明
(文章化)
する

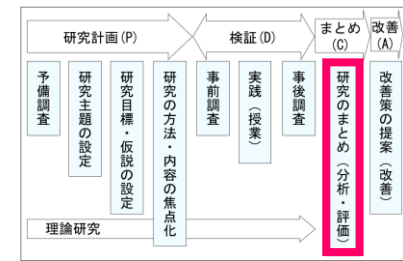
「研究の仮説」の「期待される効果」を検証
「研究の目標」の「達成状況」を検証
「研究の成果と課題」を明らかにする

必要なデータの計画的な収集



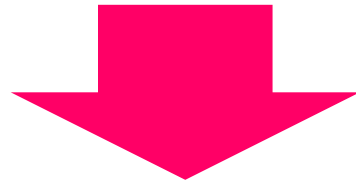
- 授業研究会の記録
- 授業の動画・写真
- 授業記録（全体の様子、抽出児童生徒）
- 調査（アンケート、学習状況調査、
CRT、評価問題など）
- 面接・対話の記録
- 作品分析の記録 など

データの分析・考察



手立てに効果が見られたのかを検証し、
目標が達成されたかどうかを判断するには

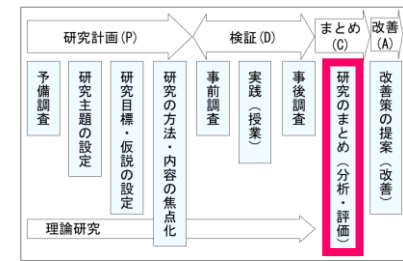
判断する目安（指標） が必要



判断の目安を設定するために

- 目指す児童生徒像が具体的に設定されているか
- 身に付けさせたい力が具体的にになっているか

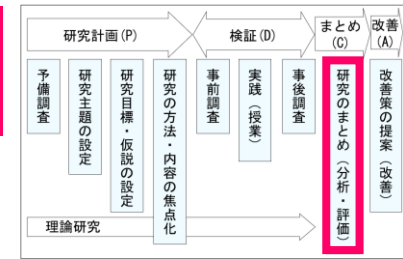
分析・考察のポイント



- 質的・量的に分析・考察する
- 事実と解釈を明確に分ける
- 肯定する事実のみで考察しない
- 仮説の手立てと効果についてのみ示す
- 単なる集計ではなく、分析（要素の抽出）
を行う

など

個人の変容を示す(事前と事後の比較)



例

(1)「思考・判断・表現」

抽出生徒Aのワークシートの記述の変容を基に考察しました。抽出生徒Aは、自分なりの考えをもつことはできますが、根拠をもって自分の考えを表現することに苦手意識をもっている生徒です。資料1は6月以前の記述で、

このときは、多面的・多角的な視野をもつことができていませんでした。

☆過密地域と過疎地域の課題解決のための方策について自分の考えを説明しなさい。

過疎の地域に建設された

7月の「産業の発達と幕府政治の動き」の授業実践

資料1 抽出生徒Aのワークシートの記述(5月)

では、単元のはじめに、江戸幕府の財源の減少を示し、問い返しをしながら学習課題を設定して授業を進めました。資料2の枠組みを基にワークシートに合わせた学習課題を設定するように促したことにより、自分の考え(資料2の枠組み)を示して記述することができました。

抽出生徒の記述の変容

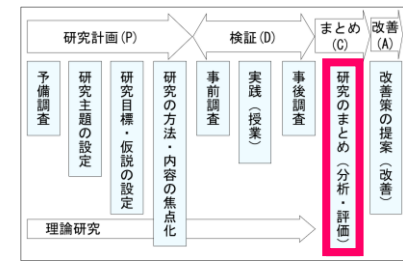
的状況に陥ってという単元を貫き通す必要があるように促したことにより、自分の考え(資料2の枠組み)を示して記述することができました。

④沼の政治は④沼意次が行ったものである。④沼意次は老中となり10代将軍の信頼を得て、幕政を担当した人物である。改革の内容は商工業が株仲間を奨励したり、長崎での貿易を活性化させるために、銅の専売制の実施や貨物の輸出拡大のため、限られた調査を行ったような内容である。また、印旛沼の干拓事業も行った。この改革の結果は1782年天明のきまんて百姓一揆や打ちこわしが起こり、意次は老中を辞めさせられ失敗という結果になった。

抽出生徒のプロフィール

抽出生徒の記述の変容とその分析

個人の評価を全体で示す



例

【分析】

【実践】では、L児を中心に授業の流れを追ってきました。ここでは、全児童のワークシートを基に行った分析と、授業を参観した方々から頂いた意見について述べていきます。

○ 全児童のワークシートより

まず、全児童のワークシートを分析した結果について述べていきます。児童のワークシートを、①本時の目標にあった学習問題を立てることができていたか、②適切な実験結果を記録しているか、③妥当な考察を行うことができているか、の3点について、分析をしていきます。

評価

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①に対する評価	◎	◎	△	△	◎	◎	○	△	◎	○	△	◎	◎	◎
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	L
①に対する評価	◎	◎	◎	△	◎	△	○	△	△	◎	△	◎	△	△

判定基準

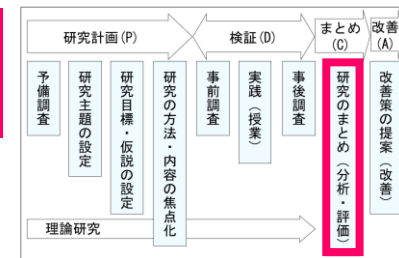
【判定基準】◎：同じ体積である，物の種類が違う，本当に重さが違うか，の3点を明確に記述した学習問題を立てている。

○：同じ体積である，物の種類が違う，本当に重さが違うか，の3点を意識していることがうかがえる学習問題を立てている。

△：同じ体積である，物の種類が違う，本当に重さが違うか，の3点のどれか，あるいは全てが欠けた学習問題を立てている。

「①本時の目標にあった学習問題を立てることができていたか」に関する評価

集団の変容を示す(事前と事後の比較)



例

(イ) B校第5学年

a 調査問題の結果から

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題の結果から分析しました。表4はその結果を示しています。

表4 佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】を基にした調査問題の結果

評価の観点	出題の趣旨		正答率 (%)	
	6月	11月	6月 n=27	11月 n=25
知識	日本の南端の島が沖ノ鳥島であることを理解している	工業地帯や工業地域が集まっている所が太平洋ベルトであることを理解している	85%	72%
技能	日本の位置を地図から読み取ることができる	資料から、大工場と中小工場の工場数の違いを読み取ることができる	93%	92%
	日本の位置を地図から読み取ることができる	資料から、大工場と中小工場の生産額の違いを読み取ることができる	96%	100%
思考・判断 ・表現	資料を基に、山地に挟まれた高松市の降水量が少ない理由について説明することができる	資料を基に、運搬船で輸送する理由について説明することができる	7%	28%

n
全体数

分析・考察を行うときのポイント

事実と解釈を明確に分ける

例

事前の記述を見ると、○○○○であった。

また、振り返りの記述では、○○○○であった。

事後の調査では、○○○○と回答していた。

これらのことから、△△△△と考える。

分析・考察を書くときのポイント

事実と解釈を明確に分ける

「知識及び技能」の変容が見られたか。

研究委員からは日々の授業の質的改善のプロセスを通して、「既習の知識を学習に生かそうとしたり、式、表やグラフと関連付けて考えようとしたりする児童が増えた」、「友達が考えた図の意味を理解しようとする姿が見られるようになった」という児童の変容が伝えられました。

「知識及び技能」が身に付いてきたかについては、実態調査を基に分析しました。実態調査では、学習状況調査の「知識・理解」と「技能」に関する問題を使って分析しました。

事実

4月の実態調査では、除法で表すことができる二つの数量の関係を図から考える問題では、正答率が52%から88%に伸びていました。また、1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を数直線上に表す問題でも、正答率が70%から86%に伸びていました。また、数直線上に表した数量の関係を、除数が小数である場合の除法を用いることができることを理解している児童は、66%から70%になりました(表1)。問題の中に出てくる数量だけで答えを導き出すのではなく、数量を図や数直線に表して捉えることのできる児童が増えてきたと考えます。

表1 実態調査の分析

出題の趣旨	割合 (%)	
	4月	11月
除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している。	52%	88%
1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる。	70%	86%
1に当たる大きさを求める問題場面では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している。	66%	70%

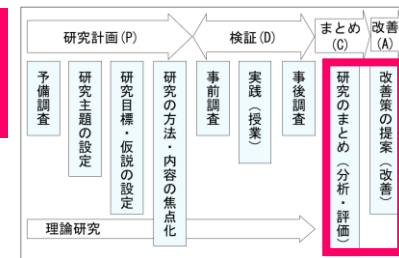
N=50

解釈

この結果や研究委員から伝えられた児童の変容から、日々の授業の質的改善を継続していくことで、目指す資質・能力の中の「知識・技能」の育成につながってきていると考えます。

研究の成果をまとめるときのポイント

どのような手立てが効果的であることが分かったかについて述べる

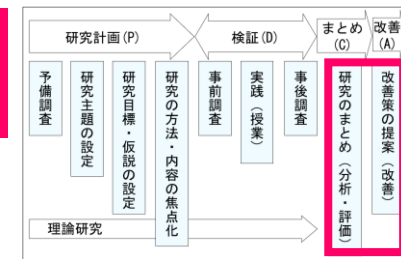


例

- ①…の面では、…するために、…したことが有効であった。
- ②…を育てるためには、…が効果的であることが明らかになった。
- ③…の在り方として、次のことが大切であることが明らかになった。
…ように、…し、…を行うこと。
…の場では、…させること。

成果に書いてあることの根拠が、どこに示されているか

研究の課題をまとめるときのポイント



実践の中で不十分だった点を問題点
として取り出す

更に高めたい点を課題として取り出す

例

- ①…の面では、…の際、…であった。…際には、…していく必要
があると考える。 【問題点型】
- ②本研究で指導の中核とした…は…であった。今後は、もっと
…ような有効な手立ての開発を図りたい。 【発展型】

課題に書いてあることの根拠が、どこに示されているか

研究のまとめで重要なこと

○論旨が明確で一貫していること

- ・ 論旨が明確で、構成が妥当である。論旨がテーマに即している。

○論文としての体裁が整っていて、内容が正確であること

- ・ 論文の組立、展開が論理的で、確かな理論構成を基に実践を行っている。
- ・ 資料等によって裏付けられた実証的なものである。

○創造的な研究が継続的・集中的になされていること

- ・ 創造的で、継続的・集中的な研究・実践が見られる。
- ・ 文献を十分に調べ、それを効果的に生かしている。

○ 明確な表現、表記であること

- ・ 文や文章の筋が明確である。
- ・ 文法上、または用語上の誤りがない。
- ・ 読者を考慮した丁寧な記述になっている。

※「論文表記上の参考資料」も参考にできます（佐賀県教育センターHPで閲覧可能）。